

魅力あるまちづくりから、絆・ひとづくりへ

～公園・花壇の整備と人を巻き込むまちづくりのための「シカケ」と「シクミ」～

【趣旨】

邑知の郷公園を魅力ある公園にし、市民が集い、楽しく利用できる公園にする活動をしている「キラリひとの会」。羽咋市全体が色とりどりの花で美しい町並みになるよう活動している「フラワーメイト」。2つの団体が目的を達成するための具体的な手法や、市民・地域の関係団体・行政と連携した活動をするための「シカケ」と「シクミ」を考える。

【ゲスト】

船引 孝昭

小田野中央公園まちづくりの会会長

東京都八王子市で活動している「小田野中央公園まちづくりの会」は公園づくりとまちづくりを行う市民団体。この活動の元になったのが「小田野中央公園をつくる会」である。「つくる会」は地域の町会、自治会、市民団体、市が集まり、協働の公園づくりを話し合い、平成18年に「小田野中央公園づくりパートナーシップ協定」を市民団体と八王子市が交わし、平成20年に同公園を開所した。地域住民と行政の協働による公園づくりと、公園が完成したあとのまちづくりを、先行して行っている八王子から学びたく、会長の船引氏をお招きした。

【コーディネーター】

藤橋 由希子 石川地域づくり協会運営委員

普段は金沢市内のホテルに勤務し、観光誘致やおもてなしの第一線で活躍しているほか、ボランティアガイド「まいどさん」の一員としても活動している。また、“観光を手段とした地域振興”を目標に、異業種による研究会の会長も務め、調査研究だけでなく実働に至るまでの様々な事業を行っている。

協力団体 ● キラリひとの会、フラワーメイト

会場 ● 羽咋市文化会館第4研修室

参加者 ● 31名

1. 分科会要約

「キラリひとの会」の活動報告（現地見学）

キラリひとの会は、邑知の郷公園（平成16年開園・8ha）を市民が集う魅力ある公園とすることを目指し、「自分たちが使う公園は自分たちで」をコンセプトとして活動している。この公園は、多目的広場（羽咋市）・農園（個人）、水のふれあい（JA）及び自然の森（キラリ）の4ゾーンで構成されている（括弧書きは管理者）。

自然の森ゾーンは、芝生、丸太の階段、どんぐりの木などがあり、園児や親子連れの姿が見られるようになったものの、多くの市民で賑わうところまでには至っておらず、管理者同士、また市民の方々の協働が課題であると考えている。



「フラワーメイト」の活動報告

フラワーメイトは、羽咋市全体を色とりどりの花が咲く、美しい町並みとすることを目指し、「羽咋のまちを花いっぱいになりたい。」との思いで活動している。羽咋市文化会館前の花壇にチューリップを植えたり、「こぼれ種」を使ってコスモス

を植えたりしている。

活動は、他の市民団体や市内にある企業の協力を得ながら行っているが、今後この活動を継続するため、市民の方々の協働をさらに充実していくことが課題であると考えている。



「小野田中央公園まちづくりの会」の先進事例報告（同会会長船引孝昭氏）

小野田中央公園まちづくりの会は、東京都八王子市において、公園づくりとまちづくりを行っている。前身の「小野田中央公園をつくる会」が取り組んできた、町会・自治会・市民団体・市との協働による公園づくりについてご紹介頂くとともに、効果的な協働の「シカケ」と「シクミ」についてお話を伺った。



2. 開催で得たもの（新しい発見）

小野田中央公園まちづくりの会の活動報告及び参加者の質疑応答から得られた、協働の「シカケ」と「シクミ」は以下のとおりである。

- ・市民と行政が企画段階から協働することが良好な協働関係を生む。
- ・協働プロセスにおいては、関係者それぞれの専門性を活かすことにより、より効果的な行動関係が構築できる。その前提として、各関係者の特性をよく把握する必要がある。
- ・市民の合意形成・意思決定の仕組み、市民から意見を集めこれを反映させる仕組み（アンケート調査・ワークショップ・現地調査等）を整備することが必要である。小野田中央公園をつくる会では、「桜ワーキンググループ」、「子どもの遊び場ワーキンググループ」等を実施した。
- ・課題把握と相互理解を十分に深め、協働で整備するという目的を共有できた上で初めて具体的な公園整備に進むことができる。拙速に多数決で決めず、皆の納得を十分に得ながら前に進むのが肝要である。
- ・具体的な公園づくりの段階においては、市民と行政が共に汗を流し、考えることにより、信頼関係が構築される。小野田中央公園の場合には、市民（もちろん子どもも）、行政が一緒になって遊歩道の桜植樹や子どもの遊び場検証等を行った。
- ・具体的な公園づくりとともに、公園を舞台としたネットワークを創ることが大切である。小野田中央公園の場合には、生徒会による公園ルールづくり、造形大学学生による壁画制作、また公園をシン

ボルとして児童のデザインによる「カメの日時計」制作を行った。さらには、盆踊り、桜祭り、竹箒作りワークショップ等のイベントを開催してきた。

3. 分科会まとめ

本分科会の協力団体の課題は、市民の方々・行政との協働の促進であり、これに対し、小野田中央公園まちづくりの会の活動報告やこれを受けた参加者の質疑応答から得られた協働の「シカケ」と「シクミ」の要点は、以下のとおりである。

- ・各関係者の役割分担を明確にするとともに、専門性を活かすこと
 - ・合意形成・意思決定の仕組みを構築するとともに、市民の意見を適切に反映させる仕組みを用意すること
 - ・結論を得ることを急がず、一つ一つ納得を得ながら進めること
 - ・企画から実行・運用に至る一連の流れにおいて、市民と行政が共に汗を流し、考え、達成感を感じること
- 市民・行政の協働にあたっては、これらのことを踏まえながら、信頼関係・ネットワークの構築を図っていくことが重要である。



4. 今後に向けた展開

本分科会の協力団体である「キラリひとの会」、「フラワーメイト」とも、今回得られた協働の「シカケ」と「シクミ」を、自らの実状に合わせて取り入れていければ、今後ますます協働の輪を広げていくことができるのではないだろうか。

キラリひとの会については、小野田中央公園と同じ「公園」による地域づくりであり、これから、市民（特に子どもたち）とともに、「利用しながら公園づくり」を行っていく具体的な仕掛けを実行することにより、また、フラワーメイトにおいては、市民と行政が共に汗を流す機会を増やしていくことにより、市民との信頼関係と魅力的な公園づくりを、車の両輪のように前進させていければと思う。